

歴史を歩く時代を歩く : 服部英雄退職記念誌 : と
ことん服部英雄表紙等

<https://hdl.handle.net/2324/1515835>

出版情報 : 2015-03-28. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン :
権利関係 :

謝礼

私が定年を迎えるに当たり、修了生有志の方から文集を作成したいと提案があった。研究論文を書かれる方、追想を書かれる方、どちらでも自由で、いずれにするかは執筆者が選択するという原案であった。みなさまの賛意とご協力をいただいて、三月末退職時に、『歴史を歩く時代を歩く』を刊行できた。前者に当たる〈歴史を歩く〉には問題意識を共有できる方々のご寄稿をいただいている。わたしたちが担うべき課題をさらに深化させ、拡大させることができた。わたしも三編の論考を執筆した。後者に関してはあつかましくもわがままな追加のお願いをした。執筆者の範囲を、研究室関係者のみならず、大学教員となる前に自分とおつきあいのあった方々にまで広げたいという提案である。それが異例で僭越で、身の程知らずなことと承知はしている。周辺におきたできごとや、ともに生きた人々、そして二〇世紀後半から二一世紀初頭にかけての時代が主人公になった。執筆依頼は主として大学関係は貴田潔さんが行ってくれた。拡大した範囲、主として九大以前の執筆依頼は私自身が行った。「そんなのは賞めなければいけないからいやだ、箇条書きならよい」、という方もおられた（その方の寄稿は実際には箇条書きではなかった）。旧悪も相当に白日にさらされた。親しい人ほどの短所を明らかにしている。また同じ時間・同じ空間にいても、知らなかったことは多かつたし、記憶の曖昧さも痛感した。修了生のみなさんも、気がつかない多くを語ってくれた。

このような成果を得られたことは至福である。退職によって、社会を支える側から、社会から支えていただく側に廻る。使命である史実を明らかにする作業は、以後も健康が許す限り継続したい。

御寄稿くださった各位に心より感謝する。関係者、特に編集の労を単独で担われた貴田潔さんと、城島印刷の仲西佳文社長にはとりわけ篤くお礼申し上げます。

乙未仲春

服部 英雄